

# 学校法人 木下学園 カナン国際教育学院

## 2021年度 自己点検・評価

5:達成している／4:ほぼ達成している／3:どちらともいえない／2:取り組みを検討中／1:改善が必要

1. 教育の理念・目標等		評価
1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-3	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

### 《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は進学に特化した日本語教育機関であり、学校理念の一つに「世界で活躍できる人材の育成」を目指すということを掲げている。年々変化する社会のニーズを的確に捉え、その時代にあった人材を育成・輩出するため、常に新しい情報をもとにした教育手法等を柔軟に取り入れている。実際の授業においては、座学での日本語学習のみならず、学校行事を通じた体験型学習の機会を設け、日本の文化や習慣、ビジネスマナーなど多岐に渡り指導している。

学校理念は、その設定意図や意味について全教職員はじめ学生へも繰り返し伝えるため、全教職員が出席する半年に一度の会議の場や入学式等の式典の際にも説明の機会を設けている。また、常に学院全体として学校理念に対する共通認識を持てるよう、各国後に翻訳した学校パンフレットへの記載、ホームページへの公開、学内各所への掲示など明文化を行っている。

それに加え、全専任教職員が作成する自身の評価用目標管理シートにおいては、学校理念・教育目標をブレイクダウンした各部の目標が設定されており、それをもとに各専任教職員が各自の目標を設定をしている。

本校の将来構想は、中長期計画にて以降10年の計画をしており、半年に一度の全教職員会議の場においてその進捗度合いと新たな計画や変更点についても明示し、共有している。現状維持を求めるのではなく、常に進化を求め、更に良い環境、教育を全学生並びに全教職員に提供するために、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営		評価
2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5
2-7	IT化等による業務の効率化は行っているか	5

### 《現状・具体的な取り組み／課題》

本校では、日本語教育機関の告示基準を満たしている。主に、校長・副校長と各部部长が告示基準の担当となり、あらゆる面において告示基準から逸れることがないように精査するとともに、全専任教職員が告示基準について理解をし、実行ができるよう周知をしている。

意思決定システムについては、ボードメンバーを主軸とするトップダウンとボトムアップ双方のメリットを生かしたシステムが有効に機能しており、各部部长が方針を示すことも実務担当者が意見を出すことも積極的に行われ、円滑な学校運営ができているとともに風通しの良い組織風土が育っている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用している。昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大も踏まえ、その対策についても網羅済み。年2回の避難訓練、年1回の防災体験を従来より引き続き実施しており、2021年度からは本校独自の災害対策動画(地震編・火災編)を新たに作成し、避難訓練時に学生全員へ視聴させている。また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、学校のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

コンプライアンスとしては、毎年ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修等を行ない、リテラシーの向上に努めている。

IT化は引き続き推進中であり、新たなツールやシステムについては、リスクや運用方法を十分検討しつつ、積極的に導入をしている。2021年度は新たなPC等のデバイスを購入した。Wifi設備の増強も実施しオンライン授業やオンラインセミナーの開催時にも安定した接続環境が保たれるようになった。

### 3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	5
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	5
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

#### 《現状・具体的な取り組み／課題》

本校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、日本語だけでなく日本の文化や日本を理解すること、そして世界で活躍できる人材として通用する多種多様な学習、活動を設計・設置している。

本校には初級コースから特進コースまであり、それぞれのコースで教育目標達成に向けたカリキュラムを作成するなど、学生が安心して希望する大学、大学院進学を目指せるよう学生のレベルに合わせた細かいカリキュラム設計を行っている。

また、メインテキストに応じた副教材・確認テスト・復習テストを作成して、一日24時間と限られた時間の中で、効率の良い学習環境を整えている。さらに、成績評価や進級などは期末テストをベースに授業で行うテストを参考に、担当した講師全員で評価している。それが問題なく行えるのは、日頃から講師同士で常にコミュニケーションが取れている結果だと感じている。

### 4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4-3	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

#### 《現状・具体的な取り組み／課題》

学生の入学から修了・卒業までの学習成績の記録をデータベース化し、管理システム及びクラウド上で管理している。また、テストの告知や結果などはアプリを用いて行い、学生が自由に自分の成績を把握できるようにしている。また、学期ごとに通知表を配布して、学生たちのみならず経費支弁者や親御さんにもお送りして、日頃の学習成果を共有している。

本校ではEJUとJLPTを意識したカリキュラムを作成して運用している。試験前には試験対策や模擬試験などを行い、学生の進学希望を叶えるために最大限の支援を行っている。

進路指導においても、進学希望先一覧をデータベース化し、すぐに現在の進学希望先がわかる仕組みとなっている。そして、毎回面談記録を残し、誰がどこまで指導を行ったのかを共有している。必要に応じて、主任教員や進学担当、生活指導の教員が一丸となって進路決定をサポートしている。

### 5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時には、オリエンテーション(中国・ベトナム・英語圏などのネイティブの職員や各国の通訳を介して)、東京都青少年・治安対策本部より留学生向けの注意説明会を行うことで、学生が安心して留学生活を始められるようにサポートを行っている。

その他、年4回以上の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。さらに、出席率の悪い学生には、母国語を話せる職員が面談を行い指導している。今年度は、新しく学生全員に個人メールを発行し、そのツールを活かして、改定した学生向けハンドブックの資料共有を実施している。また、学校のお知らせや注意喚起は学生管理システムを通じて徹底的に情報を共有している。

6. 教育環境

評価

6-1	学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか	5
6-2	実際に使用している教材は適切であるか	5
6-3	学習効率を図るための環境整備はなされているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

校舎内教室等施設については「日本語教育機関の運営に関する基準」、並びに「日本語教育機関審査内規」の定めるところを十分に満たしている。廊下の窓に網戸がなかった箇所へ網戸の設置を行い、その他建物の老朽化に伴う破損・汚損箇所も、毎日の校舎見回り担当者や担任教員等発見した者からすぐに報告を受け、早急な修繕対応を行なえる体制をとっている。

自主学習についてはさらに視聴覚教材等を整え、学生が利用できるようにしてある。図書室には、随時新刊を取り揃え、自主学習の場として提供をするだけでなく新たな学びのきっかけ作りも行っている。

7. 入学者の募集

評価

7-1	入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか	4
7-2	募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料は適切であるか	5
7-4	定員数に応じた募集活動は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

今年の4月以降、国によって渡航が許可されるようになったため担当者が現地へ赴き(中国は除く)、面接・書類審査を実施し入学者の選抜を行った。入国の条件が厳しい国は引き続きオンライン面接と書類審査を行っている。

また今年度は約2年間ぐらい待機していた学生が、一気に入国したため本校は、すぐに定員数に達してしまった。来年度は、募集枠が少ないので、これが現状における当校の課題である。

8. 財務

評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5
8-4	財務情報の公開の体制は整っているか	2

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナ禍という特殊な情勢においても、顧問税理士との連携のもと雇用調整助成金等各種助成金・補助金等を最大限活用することにより財務への影響はおさえられた。収入減少による影響は多少あるものの、学生へのサービス提供の品質を落とさず、コスト削減を全社を上げて取り組むことができた。また、このような状況を全職員が理解し、取り組んでくれたことも非常に良かった。現状のPLを考えると今期については問題ないと考えている。

理事会及び評議員会で承認された予算・収支について、2021年度は昨年同様に、感染症対策に予算をあてる割合も多かったが、ほぼ計画通りに推移することができており、その有効性・妥当性についても問題はない。一部、先行投資としての新規事業に割り当て始めたものもあるが、厳しい状況においても新規事業に取り組めているのは、全社員の協力のおかげであると実感している。

なお、財務情報の公開については、現状取り掛かっているホームページ更新が完了したら公開する予定である。

9. 法令遵守

評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は各種学校の日本語学校として、東京都、法務省の法令、設置基準を満たしており、また、法務省からは2005年以降適正校としての認定を受けている。今年度も適正校の認定を頂いており、17年連続での認定となった。

個人情報保護においては、廃棄書類のシュレッダー活用徹底、ファイル共有等で使用しているクラウド上のセキュリティ制限対策（関係者のみアクセスできる設定を行う等）を講じるとともに、ゴミの出し方や業務上取り扱う個人情報のやり取りについてなど注意すべき事象が発生した際に従業員自らが率先して発信元となり啓発を行うなど意識が高い状態を維持できている。

一方、学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおける説明（母国語）やクラスでのホームルームでも随時指導を実施。大型の休みに入る前にも必ず注意事項の説明を行なっている。特に、身分証明書等の管理については何度も繰り返し指導を行うようにしており、地域管轄の城東警察署よりご担当の方をお招きし、留学生を中心に増えている犯罪等について注意喚起を実施いただいている。

自己点検・評価については、2017年度より実施・改善を行っており、ホームページ上でも情報の公開を行っている。日本語教育機関に係る各種変更の届出、私学行政に係る届出においても遅滞なく実施できている。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1	学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか	4
10-2	生徒に向けてボランティア活動への奨励・支援は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

都立高校に訪問して異文化交流会を開催した。10教室を周って学生たちが母国の紹介をした後、高校生たちとフリートークを行った。本校の学生にとって生の異文化に触れることができる大切な機会であり、学習意欲を高めることにつながったと思う。

また、近隣地域の外国人対象に一般コースを開設した。日常生活に困らない日本語、就職するための日本語、試験対策の日本語など様々な要望があるが、その一つ一つに向き合い、ニーズ分析・レディネス調査を行って最適な環境で日本語学習を行えるようにした。

《総括》

理事長

本校には3つの学院目標がある。

1. 「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
2. 本校の学生、教職員、関わる全ての方に最適な環境を提供する。
3. 東京都を代表する日本語学校になる。

この3つの学院目標を覚え、教職員一同全力で学院目標の実現に向けて取り組んでいる。特に、2については、「学生の満足度を上げるためには教職員の満足度も上げる必要がある」という考えのもと、教職員の満足度を上げる取り組みも十分に行なっている。しかし、2020年、2021年とコロナの影響を大きく受け、専任、非常勤ともに出勤調整を強いることとなってしまった。この点については、助成金を活用、従業員への納得のいく説明を繰り返しながら、ご迷惑をおかけしないよう範囲で最大限の努力をしたと考えている。結果、この間での学校都合での退職者を出すことなく運営をすることができた。

また、学校法人として開校以降初めて2020年、2021年赤字となってしまった。2021年は最小限にとどめることが出来たが、学校運営上では財務面では課題が残っているため、2022年以降で全社を挙げて改善を図っていく予定である。

学生向けの教育理念も3つある。

1. 「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
2. 日本語教育を通じて、日本社会で自立できる人材を育成する。
3. 学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う。

この3つは教職員だけでなく、学生にも覚えてもらっている。特に、進学面については、ツールの導入や独自試験(EJU、JLPT)、独自のカリキュラムなど、進学に特化した部分の強化を図り、難関進学校への合格者を相次いで輩出することができた。カナンとしての独自の進学アセットが整ってきている状況を確立することが出来ている。

次年度以降も、これらの目標達成に向け、さらなる組織力・教育機関としての体制強化を目指し、学院一丸となり力を入れ取り組んでいく。